

心温まる白子の集い

跡見学園女子大学花咲記念資料館学芸員 渡辺 泉

平成21年8月12日

和光市白子コミュニティセンターにて、かつて跡見学園が農園として利用していた白子校地についての座談会が行われました。

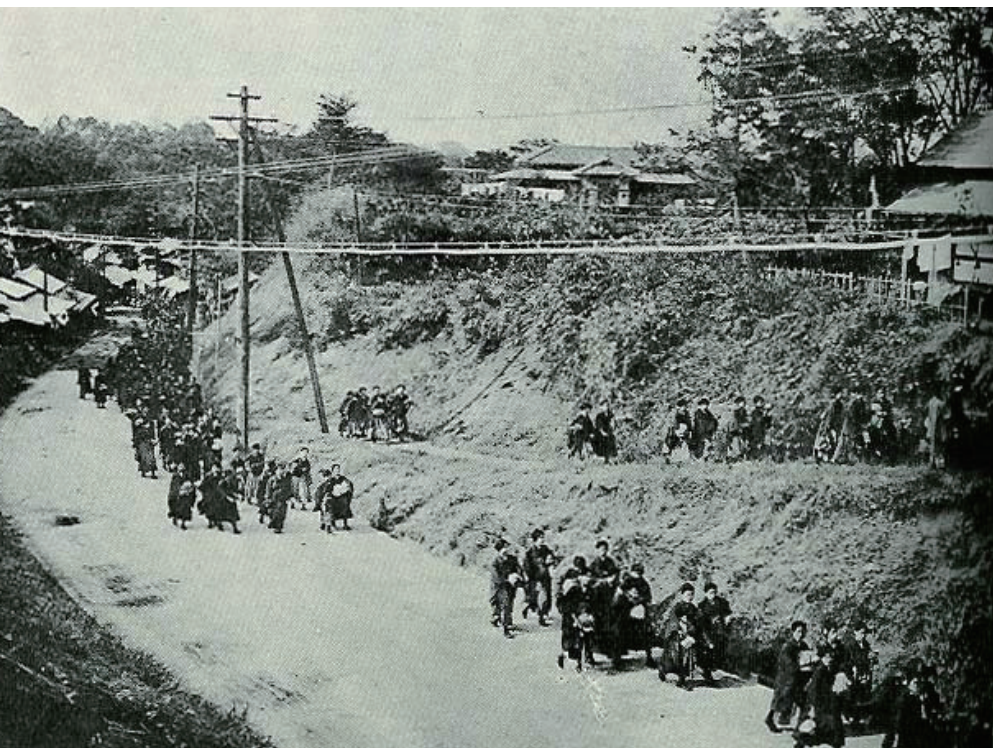
古くより湧水の地であり、川越街道沿いの宿として栄えた白子。昨年8月、NPO法人和光・文化を育む会と和光市との共同企画により、白子についての座談会が企画されました。当日は白子の歴史と文化、ゆかりの人々が紹介された後、嶋田学長による白子と本学園の関わりについての講演と、卒業生たちによる座談会が開催されました。当日は関係者のほか、和光市でインターンシップ中の本学学生2名、校友会の方々、白子校地を知る卒業生など多くが集まりました。母が本学園の卒業者であるという参加者から、当時の写真を嶋田学長に贈る一幕もあり、和やかに進みました。

嶋田学長からは、1924（大正13）年、学校関係者たちがまず跡見花咲に白子校地（購入当時は3,932坪）を贈り、花咲がこれを学園に寄付してから、埼玉県知事の要請により校地が1963（昭和38）年、3回に分けて処分されるまでの約40年の歴史が語られました。白子はこの間さまざまに土地活用が検討されましたが、主に農園として活用され、校地の一部は国道浦和―田無線（聖火ラ

ンナーが通ったことからオリニック道路とも通称される）となっています。白子の代替地として、新座町大字大和田（当時）に15,000坪を得て、1965（昭和40）年に女子大学が開学しました。

座談会には、白子出身者を含む戦時中に在学した卒業生が多く参加しました。当時生徒たちは勤労奉仕、軍需工場での作業などに動員されました。1938（昭和13）年頃から学校のある大塚から白子まで通常ならば電車を利用する約11キロの行程を強歩、到着後芋掘りなどの農園作業に従事したといえます。卒業生からは、お塾（寄宿舎）の生徒は50人前のおにぎりとお菓子を持たせてもらい、遠足のような楽しい経験だったこと、終戦後教員が農園を管理してくれていたことなど様々な思い出が語られました。

現在白子付近はマンションが建ち並び、農園があった頃の面影はありませんが、付近には跡見花咲も訪れた熊野神社があり、昔の姿を今に伝えています。



↑白子農園へ向かう生徒たちの列①



↑1928（昭和3）年11月6日の記念植樹の様子②



←農園でさつまいもを収穫する跡見李子校長③

↓座談会に参加されたみなさん

